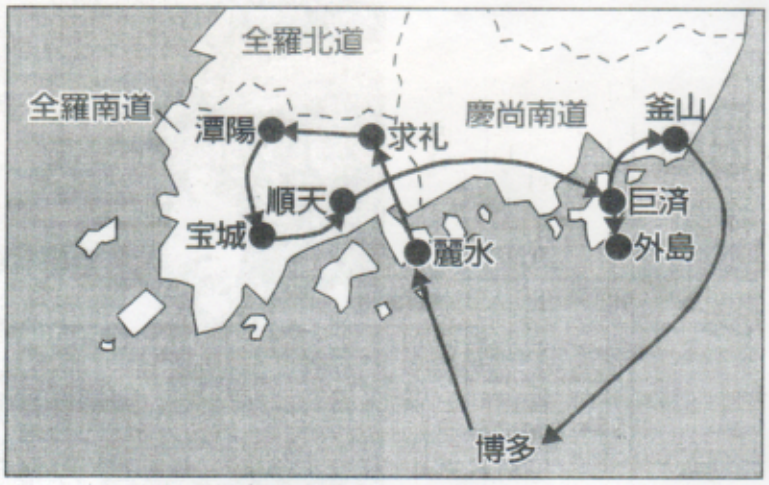
勢いがある韓国
～全羅南道・釜山の旅⑤～

前回、国民の三割を占める韓国のキリスト教には勢いを感じると書いた。中でも海外に対する宣教活動が活発なことが韓国キリスト教の特徴の一つである。



全羅南道の旅のコース

身近なところでは私が属する下松カトリック教会の敷地内には韓国女子修道会「イエズス聖心侍女会」があり、三人のシスターが幼児教育などのために働いている。約五百人の会員がいる韓国で二番目に数の多いこの会は日本のほかにフィリピン、ベトナム、南米のボリビアなど七カ国に修道女を派遣し、福祉事業などをしている。

カトリック山口・島根地区の地区長はイエズス会の韓国人、李神父。先週の日曜日、下松教会の待降節の黙想会の指導をしたのは岡山・玉野教会の金神父だった。

足の悪い妻と日本そっくりの

プロテスタントの教会でいえば、一万六百人を超える宣教師が百五十六カ国で活動しているという。

今の韓国はキリスト教に限らず、あらゆる分野で勢いを感じる。

東南アジアの若者たちの間では韓国の音楽やファッションが「Kブランド」として人気を集めている。かつては日本勢が「Jブランド」として隆盛を誇っていたところだ。

観光地としても今の韓国には大勢の外国人が訪れる。最も近い外国として日本人も多く、首都ソウルや釜山への買い物ツアーがにぎわっている。円高という背景もあるが、先日も友人の奥さんが友人と三泊四日でソウルに出掛けた。帰られて印象を聞くと、中国人観光客が圧倒的に多かったという。

福島の原発事故のこともあり、今まで日本に来ていた中国人観光客が韓国に流れたのだろう。

今回の全羅南道の旅、麗水（ヨス）を出発し、韓国仏教の貴重な遺産、五四四年に創建された華厳寺（フォオムサ）から智異山（チリサン）国立公園のふもとの求礼（クレ）に。そこで一泊したあと美しい竹林で有名な潭陽（タミャン）、茶畑観光の宝城（ボソン）、楽安邑城（ナグァンウプソン）民俗村を経て順天（スンチョン）で一泊。

翌朝、世界五大沿岸湿地・順天湾自然生態公園を散策。遊覧船で巨済（コジェ）外島海上観光農園を見て釜山港からニューかめりあ号で博多に帰るというコースであったが、観光地はいずれも人気韓国ドラマのロケ地でもあり、その人気によって上手に観光客を集め、今の韓国を元気にさせている。実にうまい作戦である。

食文化にしても、キムチを代表として世界を席捲（せっけん）している。キムチは各国のいろんな料理にも利用されて、元気な韓国を象徴している。韓国料理の定番、ビビンバは隣りの全羅北道の中心地、全州（チョンジュ）が発祥の地らしいが、全羅北道に近い求礼で夕食として「松茸ビビンバ」を食べたが日本人を喜ばすように工夫もしている。

元気な韓国。日本も早く元気を取り戻したいものだ。まずは一人々々が元気になること、そして異なる多様性を認め、何ごとも前向きに考えて生きたいものである。

いろんな種類のキムチが毎回出される